

25年前のWSC誕生の頃、戦争の色濃い時期のクウェートに仕事で行きました。行ったことがなかった砂漠、そこに行って見たいという願望もありました。そして、なにもかもが不思議な体験をしました。



気候のこと

滞在中に1度だけチヨットした雨が降りました。クウェートの砂漠は、小さな石ころと土の土漠です。雨が降ると色が黒っぽく変わります。不思議なことに、2~3日するとそれが薄緑になり、10日も経つと所々に花が咲き始めます。心癒されるひと時ですが、日ごろ見ている日本の植物の植生とずいぶん違うことに驚きました。



クウェート砂漠は土漠

日中は暑く、汗はそのまま蒸発する速乾です。帰宅すると腕に白い粉つまり塩が噴き出ています。気温55℃も経験しましたが、暑いというよりも痛くなります。砂嵐も経験しました。粉雪の吹雪に似ていて、目は開けていられない状態です。泥の粉が細かな砂となって、髪の毛、耳の中、服の下着にまで入ってきます。現地人のターバンをつけたオバQそっくりの姿は、環境にとってもマッチしていることを実感しました。

ラマダンのこと

この期間には夜中の12時頃に家族で外出するようで、その時間帯には公園などが混雑し賑やかになります。もちろん、自宅でお酒を楽しむ人もいるとのこと。ラマダン期間の日中は、街中のレストランは休みで、ホテルか屋台のホットドッグで昼食をとるし



クウェートタワー

かありません。その屋台では、黒く汚れた前掛けをした売り子さんが、ゆで卵をゴロゴロ転がして剥き、手は汚れた前掛けで拭き、その卵と焼いたソーセージをコッペパンのようなパンに、その指で挟んで出してくれました。

意外にもこれが美味しく、何度も味わいました。気候が乾燥しているので細菌はいないようで。もちろん腹は大丈夫で無事にすごしました。

アルコールのこと

クウェートはイスラム教で禁酒ですので、いろいろと現地での「お約束ごと」がありました。出張が長引きホームシックになり、毎日の夕食をあちこち探しました。韓国料理店があり、なんとマッコリを飲むことができました。最初にその店に行ったときは、マッコリを注文したところ、無いといわれました。その後何回か店に通って、わかりました。「お茶を下さい」というと出してくれるのがわかり、何回も通いました。

我が家の暈が一番

この出張では不思議な体験だらけで、見るもの、聞くこと、諸々驚いたり、感心したりでした。寂しくなった時には、仕事現場にある宿舎を訪ね仲間と日本語で話し、夕食を共にすると、気持ちが落ち着いて和みました。そんな風を感じたことは、それまでの人生では一度もなかったもので、人は弱い動物だなあと思いました。砂漠を見たいという願望を持って行ったのですが、決して何度も行きたい場所ではありません。そのような体験を経て、帰国して我が家の暈の上に思わず大の字になり、帰ってきた！と自宅の温かさを感じたことが今でも忘れられません。